



Hello

we are NVLU

質の高い獣医師と専門職
及び研究者育成

みらい募金



第7回 獣医祭

- P4** ▶ 学長メッセージ
- P6** ▶ 1. 福利厚生施設の充実と学生支援の強化
「部活動・サークル紹介」
愛奏会 チーズ探究会 男子バスケットボール部 A.K.S(動物介在活動)
- P8** ▶ 2. 地域及び動物福祉に貢献する 第二校地の有効利用
- P10** ▶ 3. 研究・教育拠点としての富士アニマルファームの整備
- P12** ▶ 4. 多様な学生を受け入れるための大学院改革と研究支援
- P12** ▶ 5. 診療・教育施設である附属動物医療センターの設備整備
- P14** ▶ 【連載】スペシャリストへの道
 - ・国立科学博物館 田島木綿子氏(1997年3月獣医学科卒業)
 - ・パテモ動物病院亀戸 山口登志宏氏(2013年3月獣医学科卒業)
 - ・新江ノ島水族館 矢作茉奈氏(2016年3月獣医保健看護学科卒業)
 - ・恩賜上野動物園 蓮見香帆氏(2020年3月動物科学科卒業)
 - ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 高橋このみ氏(2023年3月食品科学科卒業)
- P20** ▶ 【連載】博物館活動日誌
- P22** ▶ 【News Topics】ニチジュウCAMPUS NOW

CONTENTS

Hello

we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。未来に繋げるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。

獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要があるのです。



創立150周年に向けて — 日本獣医生命科学大学みらい募金の ねらいとお願い

日本獣医生命科学大学

学長 鈴木 浩悦

本学の置かれた現在の環境

本学は明治14年(1881年)に日本最古の私立獣医学校として開学し、2031年には創立150周年を迎えます。この間に、約2万人以上の獣医師や生命科学分野の専門人材を育成し、卒業生は社会で広く活躍しています。しかし、本学の歴史には多くの困難もありました。文京区音羽の護国寺で開学した直後には、動物を解剖する敷地の確保が問題となり、その後も様々な理由により移転を繰り返しました。さらに、学生数減少による一時的な閉校、財政難による日本医科大学との合併、都築学園への売却話など、様々な課題に直面しましたが、存続への強い信念を持った先人達の努力により、今日の発展を遂げています。

近年、少子化に伴う18歳人口の減少により、約60%の私立大学が定員割れに直面しています。都市部の大学は影響が小さいと言われてきましたが、18歳人口はピーク時の50%まで減少し、本学も影響を受け始めています。さらに、コロナ禍を経て情報化社会が加速し、インターネットを通じて専門知識を容易に学べる時代になりました。ソーシャルネットワークや人工知能の発展により、大学を通じた学びの意義も変化しつつあります。このような時代の中で、本学が発展し続けるためには、創立当時の背景や目的を振り返り、現代社会における本学の役割を再定義し、それを実現することで社会の期待に応えていくことが大切です。そして、そのためには、財政を確保しながら社会の変化に対応した柔軟な改革を進める必要があります。

歴史からみるミッション

明治政府は畜産振興を掲げ、当時海外から様々な家畜を導入しました。その繁殖、飼養、防疫に関わる技術を国内で普及させる必要があり、本学の設立は時代の要請に応えるものでした。この背景から、本学は設立当初から「獣医畜産」の教育に力を注ぎ、昭和24年(1949年)に日本獣医畜産大学として開学し、獣医畜産学部に獣医学科と畜産学科を設置しました。さらに、昭和42年(1967年)には畜産食品工学科を設置しました。一方、伴侶動物に対するニーズの高まりを受け、平成17年(2005年)には獣医保健看護学科を新設しました。校名も日本獣医生命科学大学と改名し、獣医学部に獣医学科と獣医保健看護学科、応用生命科学部に動物科学科と食品科学科を有する複合大学として現在に至っています。

本学は日本初の私立獣医養成学校として誕生し、時代の先駆者として獣医学の教育と研究を牽引してきました。また、獣医保健看護学科は大学としては国内発の設置であり、他大学のモデルになるとともに、愛玩動物看護師の国家資格化に貢献しました。現在、獣医学科には国際水準の教育体制の整備が求められ、獣医保健看護学科には獣医療の幅広い分野で活躍する専門人材の育成が期待されています。応用生命科学部は動物や食に関わる生命科学の新知見を応用し、人と動物の生活を豊かにすることがミッションです。動物科学科は様々な動物の特性を明らかにし、それを動物の生産性向上だけでなく、今後は動物福祉へと応用の幅を広げていきます。食品科学科は食品の機能性や安全性をはじめ、食に関わる広範な分野を網羅的に学べる学科です。獣医系大学に設置されている強みを生かして畜産食品の分野にさらに力を入れていきます。本学は開学以来、実践教育を重視してきました。教育のデジタル化が進む中においても、実体験型の実習を重視しています。また、世界的な潮流となっているワンヘルスやワンウェルフェアの理念を実践し、社会に貢献していきたいと考えています。

重点中長期計画の策定と支援のお願い

大学を取り巻く環境が一層厳しさを増す中、本学が今後さらに発展し続けるためには、2031年の創立150周年に向けて組織改革を進めると同時に、人的資源および施設・設備の整備が必要です。そのため、以下に示す5つの重点中長期計画を策定し、計画実現に向けて資金確保に取り込むこととしました。皆様のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

1. 福利厚生施設の充実と学生支援の強化

本学では、各学科の専門教育を通じて、学生が社会に貢献する力を身につけることが大きな目的ですが、課外活動は社会を生き抜く力を育む上で欠かせません。しかし、約3年間に渡るコロナ禍の影響下で、課外活動や学内行事が制限された結果、学生自治会やクラブ活動、学内行事において、先輩から後輩へ受け継がれていた伝統が途絶えてしまいました。現在、これらを再構築するため、大学もその支援に力を入れています。また、学校施設の耐震化に伴い、以前に部室が置かれていた木造の2・3号棟が取り壊され、現在は本校から離れた第二校舎に仮の部室が設置されています。2・3号棟の跡地やゴミ置き場周辺、北門周囲の敷地を整備し、人工芝、駐輪場、クラブ棟、学生会館など、学生のための福利厚生施設の充実をはかりたいと考えています。

2. 地域及び動物福祉に貢献する第二校地の有効利用

本校とは線路を挟んで反対側の東小金井駅側に位置する第二校地の校舎については、以前から立て直しが検討されました。しかし、同敷地は都市計画の中で低層住居専用地域に指定され、高層建築(大学や病院など)ができなくなり、計画が進められない状態が続いていました。最近の武蔵野市との協議を経て、同サイズの建造物であれば一部を残して改築が可能との見解を得たため、創立150周年へ向けた事業の一環として、学校法人日本医科大学と連携し、第二校舎の大幅な改築を進めたいと考えています。2025年から稼働するワンヘルス・ワンウェルフェアセンター伴侶動物部門の取組を通じて、自治体、財団、企業などの協力を得て、改築後に伴侶動物の疾病対策や繁殖支援、保護動物の譲渡促進、災害時の支援、動物福祉の啓発活動を推進する施設を併設したいと考えています。

3. 研究・教育拠点としての富士アニマルファームの整備

現在、飼料価格が高騰する中、農業法人とは異なり、国から畜産に関連した支援をうけられない学校法人が牧場を維持し、家畜を飼育することは財政的に非常に厳しい状況です。しかし、本学は獣医畜産の振興を目的として設立し、その後も一貫して獣医畜産の研究・教育に取り組んできた歴史があります。この使命を踏まえ、畜産動物教育を軽視することはできません。本学の富士アニマルファーム(山梨県富士ヶ峰)では、乳牛や肉牛の他に、ヤギ、ヒツジ、馬などが飼育され、各学科のオリエンテーションや畜産動物に関する研究・教育の場として活用されています。近年、このアニマルファームではセミナーハウスを増築し、宿泊施設の個室化が進められました。Wi-Fi環境が整備され、食堂があり、個別空調が完備され、学生がプライベートを確保しながら学習に集中できる環境が提供されています。さらに、牧場周辺に土地を新たに購入し、放牧地として活用する計画も進行しています。

この富士山麓という恵まれた環境の中で、本学の学生のみならず、他大学や専門学校の学生、畜産分野を目指す社会人、協定を結んだ自治体の小中学生に広く活用されることを目指しています。地域や企業と連携しながら、動物福祉に配慮した近代的な飼育管理施設や産業動物の1.5次診療施設を建設することで、産業動物の先進的な研究・教育拠点として発展させたいと考えています。

4. 多様な学生を受け入れるための大学院改革と研究支援

本学の大学院研究科は、獣医学、獣医保健看護学、応用生命科学の3専攻からなり、獣医学専攻では博士課程、それ以外の専攻には前期と後期の博士課程に学生が在籍しています。将来的に18歳人口の更なる激減が予想される中、本学がその役割を果たしていくためには、従来型の研究者育成に加え、社会的課題に対応できる多様な人材育成の場となることが求められます。そのためには、社会人や留学生の受入の拡大と、大学院修了後のキャリアパスが明確で、社会に直結した教育プログラムを導入することが必要です。本学には獣医、動物、食品などの生命科学分野で活躍する約120名の教員が在籍しており、この人的資源を有効に活用することが可能です。専攻の枠を越えた協力関係と学外との連携を通じて、より実践的な教育と研究を展開し、大学院生やポスドクの受け入れを増やすとともに、研究環境を整備し、個々の研究を支援する体制を整備したいと考えています。具体的には、生命科学総合研究センターにおける特色のある研究支援に加えて、ワンヘルス・ワンウェルフェアセンターの伴侶動物、野生動物、産業動物などの各部門において、学外連携を強化し、共同研究を活発化させる計画です。この取組により、研究者の育成と社会の様々な課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。

5. 診療・教育施設である付属動物医療センターの設備整備

大学基準協会による獣医学教育評価において、獣医系大学は付属施設として動物病院を併設することが必須とされ、獣医学科の学生数に応じて、その規模も規定されています。現在の付属動物医療センターは平成15年(2003年)にC棟の建設に伴い、当時国内では最も先進的な獣医療施設として開院しました。しかし、その後の患者数の増加に対応し、病院専従獣医師や愛玩動物看護師、研修獣医師を増員するとともに、獣医保健看護学科の学生実習も行われるようになり、C棟内の病院全体の規模と各セクションのスペースが手狭になっています。一方、先進的な獣医療の教育には、新規の高度医療設備の導入が不可欠です。皆様の協力を得ながらC棟の改修工事を行い、病院施設を拡大し、高度医療設備を更新することで、学部生や研修医の小動物臨床教育、獣医療の先進的な臨床研究、地域の獣医療を支える二次診療施設、災害時の動物診療拠点などのニーズに応えていきたいと考えています。

これまでの本学の歩みを振り返り、創立150周年を迎える際に本学が前途ある姿となるよう、各方面からご支援を賜れば幸いです。

福利厚生施設の充実と学生支援の強化

- コロナ禍によって停滞した学生の自治活動やクラブ活動を活性化させるために学生支援を強化する。
- 学生会館やクラブ棟などの福利厚生施設の充実をはかる。

愛奏会

活動内容

週に5日、個人練習・パート練習を行い、集まる人が多い日に合奏を行っています。
また、5月の武蔵境ピクニックや医獣祭でのステージ発表、卒業式、入学式での入場曲演奏をしています。
コロナの流行や部員数減少により、ここ数年はコンクールや大会に出場できていませんでしたが、7月に吹奏楽連盟に加盟し、今年度はアンサンブルコンクールに出場予定です。



仲間を増やしたい!

外部でのイベント参加や八丈島での合宿に参加していましたが、コロナの流行で軒並み中止に…今年度は武蔵境ピクニックに参加でき、12月には学内でクリスマスコンサートを開催予定です。外部との交流は再開しつつありますが、より地域活動にも積極的に参加できるように活動していきたいです。
また、部員数を増やして活動していきたいですが、楽器を持っていない人に貸し出すことのできる楽器が十分でないため、初心者の方が入りづらく、部員数を増やせないのが現状です。部員から集めた部費を使ってなんとか必要物品は揃えていますが、楽器を自分で購入する人もいます。一人でも多く部員が増え、演奏できる仲間が増えるようにしたいです。

今後の目標

愛奏会という名前にふさわしく、演奏の幅を広げ、様々なことに積極的に挑戦していきたいです。

部長 獣医保健看護学科 米澤さんにお話を伺いました!



活動拠点は第二校舎。人が集まった日は合奏を行っています!



チーズ探究会

活動内容

チーズの勉強会の開催や様々なチーズの食べ比べなどを行っています。また、今年の9月から武蔵野プレイス前で開催されている「さかいマルシェ」で全国の珍しいチーズを盛り合わせたプレート販売しています。盛り合わせプレートにどのチーズを盛り合わせるか、みんなで話し合い、決定します。チーズ=海外のイメージが強いですが、実は国産のチーズが熱いです!!どんなご飯を牛に与えればより求めているチーズを作れるか…など、チーズのバックグラウンドが面白く、奥が深いと感じています。こだわって作っている国産チーズを広めたいという思いから、全国からチーズを取り寄せ、取り寄せた先に販売許可を取り、盛り合わせプレートを販売しています。また、チーズプロフェッショナル協会という団体があり、この団体が主催しているJAPAN CHEESE AWARDというコンテストでスタッフとしてお客さんにチーズの説明やお渡しなどのお手伝いをしています。このコンテストでは、チーズ生産者と話すことができる貴重な機会です。他には、全農主催の練乳レシピコンテストにも参加するなど幅広い活動を行っています。

もっと深く学びたい

活動内容は、チーズの試食や全国のチーズ職人との交流が主な活動となっています。そのような活動の中でメンバーの活動意欲を刺激できているか、もっと積極的な活動はできないかと、日々の活動をどのように充実させていくか常に考えています。
「チーズが好き!」という学生が多く集まっていますが、中にはチーズが嫌いだけど、そんな人でも食べられるようなチーズを探したいという理由でこのサークルを選んできた学生もいます。様々な理由で集まってくれたサークルメンバーと一緒にチーズについて深く学びたいと思っています。

今後の目標

チーズ探求会は「日本全国の様々なチーズを知り、その魅力を多くの人に知ってもらおう」という目標のもとに活動しています。チーズを通して日本全国の工房の方や武蔵境をはじめとする地域の方とも交流できる機会を積極的に設け、チーズが好きというチーズへの愛を忘れず、さらに活発なサークルを目指していきたいです。

サークル長であり、設立者の食品科学科 茂木さんにお話を伺いました!



男子バスケットボール部



部長であり、設立者の食品科学科 貝瀬さんにお話を伺いました!

部活の立ち上げ

大会に出て勝つことを目的に活動したかったため、2年前に男子バスケットボール部を立ち上げました。部活動で活動している団体が少ないため、前例がなく、運営も試合に出るのも初めての経験でした。
また、試合に出るには、コーチのライセンスを有する人がいないと試合に出ることができないため、講習会に参加し、コーチのライセンスを取得しました。今では、コーチ、監督、マネージャー全てのライセンスを取得し、実施することができます。

活動内容

主に週に2~3日ほど練習しており、日曜日に公式試合、練習試合をしています。現在は関東大学バスケットボール連盟5部に所属しており、4部昇格に向けて日々練習に励んでいます。また、練習試合では、公式試合で知り合った大学チームに自分でアポを取り、練習試合を行っています。練習内容は試合動画を見返して、強化したい部分を練習できるように練習内容を決めています。本学のチームは、ディフェンスを強みとしています!

部員数が...

部員数を増やすのが難しいと感じています。部活という、勉学やバイトなどの両立が難しいというイメージがあるようで、なかなか部員数を増やすことができていません。しかし、大学の部活は、学生同士で話して考えたりすることが多く、今までの部活動とは見方が変わるということも大学の部活ならではのことでと思います。また、現在は応用生命科学部の学生だけの活動となっていますが、獣医学部の学生にもぜひ入部していただき、バスケットボールや大学の部活動の素晴らしさを知ってもらいたいです。

今後の目標

バスケットボール部の魅力をSNSや学内掲示板などで発信し、「学生同士で話し合い、協力して進める部活動の魅力」や、「厳しさよりも楽しさや成長の機会があること」を強調することで、参加へのハードルを下げ、人数を増やしていくとともに、少ない人数ですが、日々強度の高い練習をし、4部昇格に向けて頑張りたいです。



A.K.S(動物介在活動)

活動内容

公益財団法人ハーモニセンターが運営する碑文谷公園こども動物広場、板橋区立こども動物園にて、動物介在活動について学びながら、ポニー乗馬や小動物ふれあいのお手伝いをしています。また、AKSが主催する「ふれあい乗馬会」では、引馬や乗馬の補助を行うサイドウォーカーを実施するため、その練習をさせていただいたり、小動物ふれあいの場ではふれあい方の練習もさせていただいております。
また、ハーモニセンターが主催で行っているニンジンあげイベントやポニー祭り、小学校や幼稚園を対象とした移動動物園にも参加しました。



難しい“引馬”

活動の中で苦勞し、難しいと感じることはサークル員によってそれぞれあると思いますが、多くのサークル員が共通して引馬が難しいと感じているのではないかなと思います。引馬とは、馬を引いて動き(進む方向など)をコントロールすることですが、馬と息を合わせて進めて止める、曲がることがとても難しいのです。馬に気持ちが伝わるので、初めての引馬で緊張していると、馬にも緊張が伝わってしまいうまくいきません。「自分が連れて行く」という気持ちが大事になります。緊張しないためにも、引馬は経験がものを言います。そのため、夏に自分たちで企画した合宿を設けてより引馬に専念した練習の機会を持たらいいと思っています。昨年の夏は、他大学の方と合同で乗馬体験や引馬の練習等を長野県で2泊3日で実施しました。

今後の目標

12月8日(日)には、コロナウイルスの影響で開催が中止していた「ふれあい乗馬会」を開催予定ですので、サークル一丸となって乗馬会を成功させていきます!(取材時)

会長 動物科学科 諸江さん
副会長 獣医保健看護学科 鳥飼さん
にお話を伺いました!



02 concept

地域及び動物福祉に貢献する 第二校地の有効利用

●武蔵境駅近くの立地条件に恵まれた第二校地を有効に利用し、
地域およびワンウェルフェアに貢献する教育と研究の拠点を創る。

日本初！
ワンヘルス・ワンウェルフェアの
教育と研究の拠点

ワンヘルス・ワンウェルフェアセンターの設置

本学を所管する学校法人日本医科大学は、「One Health for the World」を掲げており、日本医科大学では人の健康、本学では動物の健康を護ることによって人類に貢献することをミッションとしています。そこで、令和7年1月、学外と連携し、本学を上げて推進するために、ワンヘルス・ワンウェルフェアセンターを設置します。

ワンヘルス・ワンウェルフェアセンター

動物福祉を念頭に人と動物が健康で幸福に暮らすことができる共生社会の実現

伴侶動物部門

動物が身近にいて、ともに健康で幸福に暮らせる社会の実現

- 動物福祉
- 繁殖指導
- 疾病予防
- 飼い主支援

産業動物部門

心身ともに健全な動物からの良質な生産とその最大利用

- 動物福祉
- 動物生産
- 疾病予防
- 製品開発 質保証

野生動物部門

動物と人が安心して暮らせる環境作り

- 動物福祉
- 保全
- 疾病予防

(動物福祉) アニマルウェルフェアの研究・活動

植木美希名誉教授の活動や、獣医学科野生動物学研究室田中亜紀特任教授の「シェルターメディスン」の活動、本学卒業生であり公益社団法人日本動物福祉協会の獣医師・調査員の町屋奈(まちやない)氏の執筆による本が2024年7月に発刊されました！

⇒詳細はP.22



2024.1 富士セミナーハウスB竣工!!

富士山を望む抜群のロケーション!

明るくて広い更衣室、洗濯乾燥機も完備!

個室シャワー室で毎日快適!

ベッドルーム ※車椅子対応

1人部屋でプライバシー確保も完璧!



03 concept

研究・教育拠点としての 富士アニマルファームの整備

●山梨県の富士ヶ嶺に位置する付属牧場(富士アニマルファーム)を地域と畜産に貢献する研究・教育拠点として整備する。



日本獣医生命科学大学の付属牧場である富士アニマルファームは平成4(1992)年に現在地である山梨県富士河口湖町富士ヶ嶺に移転・開設して32年が経過しました。その間、付属牧場としての役割を果たすため、継続的に施設拡充を行ってまいりました。

牧場施設としては、実習場としての臨床センターを平成14年(2002年)に、さらに搾乳牛舎およびハイテクリサーチセンターを平成17(2005)年に建設して、本格的な牛乳生産が開始されました。また、黒毛和種や乳用の乾乳牛を飼育する飼育舎として平成31(2019)年に新牛舎が建設され、富士アニマルファームとしての家畜飼育環境が整いました。また、実習施設としては、富士セミナーハウスA棟が平成5年(1993年)に、そして、富士セミナーハウスB棟が令和6年(2024年)に完成し、宿泊施設としての運用が行われています。

今年度の実習として獣医学科2年次の学外実習(基礎)、3年次の動物衛生学実習I、4年次の動物衛生学実習III、獣医保健看護学科1年次の体験実習、動物科学科2年次の農場実習、4年次の家畜人工授精講習会が開催されました。また、研究課題として各学科より申請された研究は13課題が動いています。

富士アニマルファームを支えるスタッフは、常駐教員1名、技能職員としてパートを含め6名で管理業務を行っておりますが、円安に伴う輸入飼料代や燃料代、水道光熱費の高騰などにより、生産コストが上昇しております。また、令和2(2020)年には隣接する農場敷地(約7ヘクタール)を購入しましたが整備が進んでおりません。新規購入した土地を有効活用し、さらなる研究・実習拠点として充実させるため、採草地としての整備や重機の購入、飼養牛の放牧地としての整備および既存施設の維持管理に基金を活用させていただきたいと存じます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

牧場長
味戸 忠春

多様な学生を受け入れるための 大学院改革と研究支援

- 社会人を含む多様な学生を受け入れるための大学院改革を進める。
- 生命科学総合研究センターにおいてワンヘルスに貢献する重点研究を設定し支援する。



大学院INFORMATION 経済支援制度の充実

【TA制度とRA制度】

●TA:ティーチングアシスタント

学部学生等に対する助言や実験、実習、演習等の教育補助業務(具体的には、演習のディスカッションリーダー、レポート・試験等の採点など)を行い、これに対する手当が支給されます(年間最大415,200円/名)。

●RA:リサーチアシスタント

大学等が行う研究プロジェクト等の研究補助業務(具体的には、データ処理業務、各種実験の実施及び補助、研究設備の運転・整備等)を行い、これに対する手当が支給されます(年間最大600,000円/名)。※博士後期課程、獣医学専攻博士課程対象

博士後期課程及び獣医学専攻博士課程の大学院生はTAとRAの兼務が可能です(兼務の場合はTA・RA合わせて年間最大677,850円/名となります)。

TAとRA兼務すると、
大学院の授業料の金額と同じってホントですか？



本当です。
大学院の授業料は68万円で、TA・RA兼務するとほぼ同等の金額になっています。これは大学院改革の中で令和6年度から新たにできた制度です。



【日本学術振興会による 特別研究員希望者への後押し】

本学では、特別研究員申請希望者に対して申請書作成のレクチャーや申請書添削サービスを行うなど、採択に向けた後押しを積極的に行っています。

研究体制も
時代に合わせて
アップデート！



生命科学 総合研究センター 紀要

第3巻(令和6年度) より抜粋



生命科学総合研究センターは、先端獣医生命科学を機動的に推進するための総合研究プラットフォームとして平成28年に立ち上がりました。時代の潮流に合わせて何度かの改組が行われ、これにより着実に発展してきました。令和5年度は本学のブランディングを飛躍的に推進するため、これまで最大規模の改組が行われました。この改組では、研究プロジェクトの全学的な公募が行われ、採択されたプロジェクトに基づき新たな4つの研究分野(再生医療分野、大型産業動物感染症制御分野、法獣医学研究分野、ファインバブル利用開発分野)が組織されました。このように、生命科学総合研究センターは令和5年度から新しいスタートを切ることとなりました。

当研究センターは、これらの研究のイノベティブなシーズを積極的に育成し、さらに臨床応用や社会実装への後押しを介して本学のブランディングにつなげていきたいと考えています。さらに、これらの研究を介した研究者の育成ならびに研究成果の積極的な社会への発信にも力を入れていきたいと考えています。

大学院獣医生命科学研究科長 生命科学総合研究センター長 盆子原 誠

新たな時代の大学院教育の構築と ワンヘルス研究の展開に向けて

日本の若年人口は年々減少しており、今後その傾向はますます加速すると考えられます。この人口動態の変化を見据え、教育の高度化、とくに大学院における高度専門人材の育成を強化・充実することは、これからの大学の方向性として非常に重要と考えられます。このような潮流を背景に、大学院教育は画一化から多様化へ、また量から質へと体質の転換を進める必要があります。本学大学院ではこの新しい流れに 대응するよう、社会人や異なる背景を持つ学生など、多様な人材を受け入れる体制の整備や卒業教育コースの設置などを検討しています。また、ICTを活用することで時間的・地理的な制約を軽減し、より多様な人材が大学院で学べるようにしたいと考えています。さらに、学外研究機関の研究者を客員教授として招いて研究指導の幅を広げるなど、教育研究を多様化・深化させるための様々な取り組みについて検討しています。

一方、大学院教育では、教育の多様化・深化だけでなく、大学院進学のための経済的ハードルを下げる取り組みや入学後に研究に専念できる経済環境を確保することが重要です。本学大学院では、これまで入学免除制度やティーチングアシスタント・リサーチアシスタント制度を導入し、経済的な側面のサポートを行ってきました。さらに、本学では有給のポストドクター制度を用意しており、学位取得後も研究を継続したい大学院生や直ちに希望のポジションが見つからないが研究キャリアを維持したい大学院生の受け皿として機能しています。これらに加えて、今後は大学院生の日本学術振興会特別研究員への採択に向けた支援を行うなど、大学院生の経済的なサポートにつながる取り組みを一層強化したいと考えています。

このような大学院教育の強化・充実とともに重要なのが、その基盤となる大学の研究力の底上げと先鋭化です。本学には学部・大学院から独立した研究組織として生命科学総合研究センターが存在し、ワンヘルスに貢献するための重点研究プロジェクトが進められています。今後、生命科学総合研究センターにおける研究プロジェクトの拡大と研究支援の強化を進めることで、大学の研究力向上と先鋭化を加速させたいと考えています。また、生命科学総合研究センターの研究プロジェクトへの大学院生のコミットを促し、ワンヘルスを担う次世代のリーダーを育成したいと考えています。



診療・教育施設である 附属動物医療センターの設備整備

●医療設備を整備し診療体制及び臨床教育の充実をはかる



附属動物医療センターは、高度獣医療施設を標榜しており、現在循環器科、腎臓科、呼吸器科、消化器科、内分泌科、皮膚科、神経科、腫瘍内科、行動治療科、放射線科（画像診断と放射線治療）、整形外科、産科・生殖器科、軟部外科、脳神経外科、眼科、心臓血管外科、リハビリテーション科、麻酔科など多くの専門診療を抱え、一次病院からの様々な紹介症例に応えています。また、学生への教育や卒業臨床研修の面においても密度の濃い実習や研修が可能となっています。しかしながら、多くの専門診療を抱えることに伴う問題点もあります。

一つは、専門診療に特化した多様な医療機器の設置が必要となることです。附属動物医療センターでは、超音波診断装置、X線CT、MRI、X線透視装置、放射線治療器、人工心肺装置、人工透析装置、脳波計、内視鏡など、高いものだと3億円ほどする高額な医療機器をいくつも保有し、一次診療から紹介される診断が困難な症例や治療が困難な症例に応えています。これらの機器は10年ほどで更新していく必要があります。更新するには最新モデルとすることで専門診療の診断精度あるいは治療精度が高まり、一次診療や飼主様の満足度や信頼度を向上させることができるとともに、リピーター率のアップが期待できるものの、大きな負担が伴います。

多くの専門診療を抱えることに伴う二つ目の問題点は、人材の確保です。現在の一つの専門診療科に担当する獣医師は1~3名となっています。従って専門診療科を担当する獣医師が1名の場合、学会出張や体調不良などで不在になると休診となってしまいます。

附属動物医療センターが、高度二次診療施設として一次診療からのニーズに十分にこたえつつ、また充実した学生教育や卒業臨床研修を継続していくためには「高度医療機器の継続的な更新」と「専門診療を担当する獣医師の増員」が当面の課題と考えています。

附属動物医療センター 院長 藤田 道郎

附属動物医療センターの変遷



▲家畜病院時代の写真

附属動物医療センター（以下、医療センター）は、1938年に日本高等獣医学学校への昇格を機に、附属の家畜病院として開設されました。その後、1984年のD棟竣工に伴い移設、2011年に大学の附属動物医療センターとして改組され、現在に至っています。

医療センターは、19の診療科を有しており、これは、大学附属の動物病院としては非常に多い数

です。これにより、動物たちの病気や特性に合わせた質の高い獣医療を提供しています。また、医療センターでは、首都圏に限らず、北海道から沖縄まで日本全国の動物病院から紹介を受けており、年間約9,000頭の治療を行い、売上高は国内の大学附属動物病院で最高水準を維持しています。

高度獣医療施設として質の高い獣医療を提供し続けるには、診療科の充実が不可欠ですが、前頁のとおり、多様な診療科目に対応した最先端の設備を常に維持することは大きな負担を伴います。

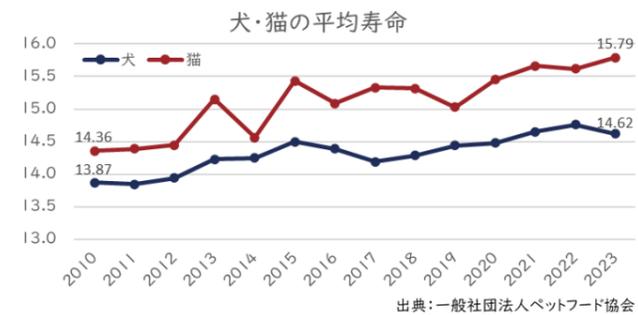
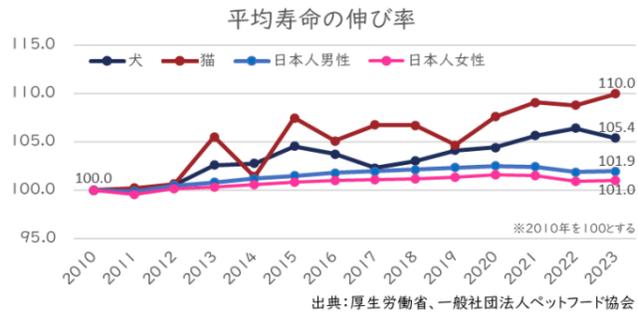
しかしながら、設備の整備の必要性は年々強まっており、本学医療センターにおいても非常に重要な課題となっています。

犬・猫の平均寿命の延伸

日本は世界屈指の長寿大国であり、2024年5月21日に世界保健機関（WHO）が発表した2024年度版世界保健統計によれば、日本人は世界で最も平均寿命が長く、84.5歳でした。

日本人の平均寿命は、2023年までの13年間で男性は1.54年、女性は0.84年延びましたが、日本で飼われている犬・猫の平均寿命は、それを大きく上回る上昇をみせています。

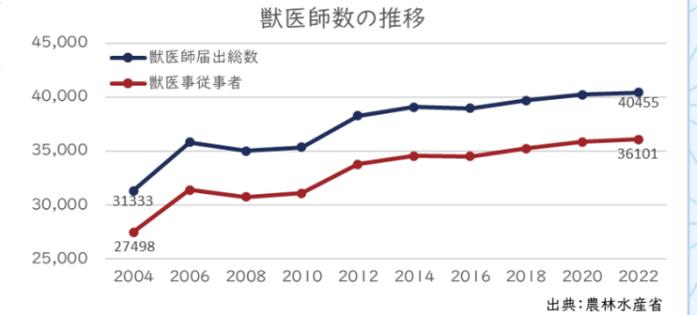
厚生労働省の簡易生命表によると、2010年から2023年までの日本人の平均寿命の伸び率は男性+1.9%、女性+1.0%となっている一方、一般社団法人ペットフード協会が実施する全国犬猫飼育実態調査における同期間の犬の平均寿命は+5.4%、猫は+10.0%と大きく伸びており、2023年の犬の平均寿命は14.62歳、猫は15.79歳となっています。



獣医師・ペット向け動物病院の増加

こうした寿命の著しい上昇の要因の一つとして、獣医師やペット向けの動物病院の増加が考えられます。

農林水産省によると、2004年時点で獣医師としての届出があった者の総数は31,333人であり、その内、獣医事に従事する者は27,498人ですが、2022年時点においてはそれぞれ40,455人、36,101人となっており、どちらも約20年間で1.3倍となっています。

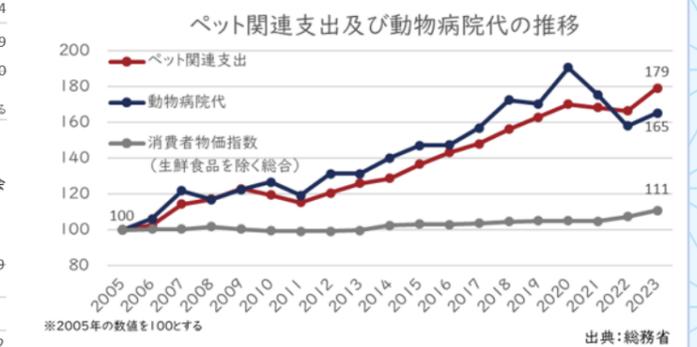


同様に、ペット向けの動物病院の数も堅調に推移しており、農林水産省によると2014年から2023年までの10年間で、産業動物向けの動物病院は3,939から4,119(+4.6%)と微増しているのに対し、ペット向けの動物病院は11,259から12,706(+12.9%)と大幅に拡大しました。



ペット関連支出及び治療費の増加

総務省の家計調査によると、ペットにかかる支出額は増加傾向にあり、2005年から2023年にかけての消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）の上昇率11%に対し、ペット関連支出は（動物病院代/ペットフード/ペット用品/ペット関連サービス）は79%増加し、その内動物病院代は65%上昇しました。このことから、ペットにお金をかける飼い主様が増えたと同時に、獣医療の高度化によって治療費が上昇していることが見て取れます。



高度獣医療施設としての設備整備の必要性

以上のことから、ペットを自分のこと以上に大事に思う飼い主様が増えており、より高度な獣医療が求められていると考えられます。そのような飼い主様に寄り添い、多様な症例に対応し、大切な家族である動物たちの健康を守るため、本学では設備整備の維持に力を入れて取り組んでいます。



THE ROAD TO SPECIALIST

スペシャリストへの道

卒業生編

本学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職(スペシャリスト)の道を既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。



東京大学大学院農学生命科学科博士号(獣医学)取得
国立科学博物館研究主幹
日本獣医生命科学大学客員教授
米国海棲哺乳類委員会招聘研究員
筑波大学生物系准教授

国立科学博物館 動物研究部
研究主幹(海棲哺乳類学、獣医病理学、比較解剖学)

田島 木綿子 Yuko Tajima

——卒業してからの職歴(略歴)を教えてください。

卒業後は、東京大学大学院農学生命科学科博士号(獣医学)を取得し、国立科学博物館支援研究員を経て、現在は動物研究部 研究主幹です。また、米国海棲哺乳類委員会招聘研究員として米国で修行したり、筑波大学生物系准教授、日本獣医生命科学大学客員教授に就任しております。

——学生時代の所属研究室はどこでしたか？

獣医病理学研究室に所属していました。体を構成する器官について、学部2年次の組織実習で細胞レベルで学ぶことができました。生物の体の構造はこうなっているのか?!と実証的に理解でき、そうした恒常性が破綻すると、「病気」になるということも学んだため、病理学を専攻したいと思い、獣医病理学研究室に所属しました。学生時代から海棲哺乳類に興味があったので、卒業論文でも海棲哺乳類の病理学的症例を検証しました。研究室に来る症例や経験は拒まず、なんでも取り組むよう心がけました。また、先輩後輩同級生とよくコミュニケーションをとるようにして、学べることは大いに学び、今の私があるのは、日獣大学時代があってこそだと思っています。

——学生時代に苦勞し、乗り切ったエピソードはありますか？

研究対象にしたい動物が産業動物ではなく、海棲哺乳類だったので、研究資料を入手するのがとても大変でした。幸いにも学内の先生にいろいろ協力していただき、卒論や将来を実現することができました。

——現在の職業を目指したきっかけを教えてください。

大きな動物を対象とした職種や人生を歩みたいとは思っていましたが、実は、海の哺乳類でなくても良いと思ってました。たまたま手に取った本を読んで、海の哺乳類に魅了され、また実際にカナダまでシャチを見に行ったことで、ますます魅了されました。やはり百聞は一見にしかずでした。

——現在の職業に就いて大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

前例がなかったので、自分で道を切り開いていくしかなかったのが大変でした。岐路に立たされた時にはいつも自分と向き合い、「どうしたいのか? どう生きたいのか?」を自分に問い、その答えが厳しい道のりでもなんとかチャレンジしてみようと頑張った結果が今に繋がったように思います。いつも友達、家族、先輩、恋人などがとても良い相談相手になってくれたので、自分の考えもまとめることができました。特に母親はとても寄り添ってくれたため、ここまで来ることができました。また、当時の友人たちがとても熱心にいろいろ調べてくれたことも支えになりました。その他の詳しいことは著書を参考にしてください。



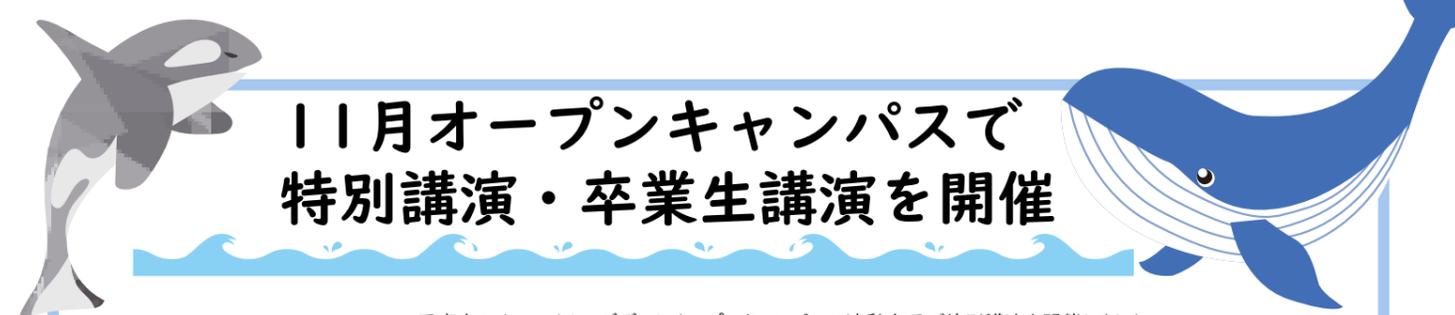
「海獣学者、クジラを解剖する。～海の哺乳類の死体が教えてくれること～」
著書:田島木綿子
出版:山と溪谷社

——現在の職業の1日のタイムスケジュールを教えてください。

調査がないときは、博物館の仕事をこなします。博物館の仕事は、展示の準備、調べ物、標本の作成、管理、データベースの整理や追加など。その他には、学生の指導、博物館の掲げている総合研究課題のまとめ、研究を進めます。隙間の時間に自分自身が興味を持っている研究も進めていますが、なかなか時間を割けないのが現実…。ひとたび、スタンディング(海棲哺乳類が海岸へ生きた状態で座礁したり、死んだ状態で漂着し、自力で本来の生息域に戻ることができなくなる)が報告されると、全ての仕事を横に置いて、スタンディング調査の交渉、可能性、準備などに全てを注ぎ、調査につきます。いつ、どこで、どんな種が打ち上がるかがわからないので、事が起こってから全てが始まり、始めることができます。

——最後に在校生へメッセージをお願いします！

最近の学生さんはとてもスマートで純粋ですが、視野が狭いところがあるように思います。さらに、私のように野生動物に興味がある人にとっては、大学で学べる産業動物や愛玩動物のことは、将来に直結しないと思うかもしれませんが、全て未来や将来、やりたいことに応用でき、繋がることも改めて認識して欲しいです。そしてよく遊び、よく楽しむことも大事。自分の人生は自分で決めて自分の足で進むしかないのですよ!頑張りましょう!



11月オープンキャンパスで特別講演・卒業生講演を開催

特別講演

同窓会のホームカミングデーとオープンキャンパスの連動企画で特別講演を開催しました。特別講演では、本学獣医学科卒業 国立科学博物館 研究主幹 田島木綿子氏を招いて講演を行いました。



(左)同窓会長 左向敏紀氏 (右)田島木綿子氏



同窓生の他、オープンキャンパスに参加の方も聴講していただきました

同窓会

ホームカミングデーとは

医獣祭は、同窓生である学生の皆さんが友情や絆を深める大切な機会であり、本学で学んだ卒業生にとっても最も思い出深いイベントです。このようなイベントを後押しする交流企画として「ホームカミングデー」のブースを開設しています。世代を超えた繋がりを深める場として、現役学生にとって有意義な機会になることを目的とし、2023年から実施し、2回目になります。

全国の同窓生の皆さまに医獣祭パンフレットの出資など、学生の活動を応援していただいております!

- 福島県支部同窓会
- 千葉県支部同窓会
- 岐阜県支部同窓会
- 長野県支部同窓会
- 愛媛県支部同窓会
- 九州連合(福岡県支部、及び九州7支部)
- 北陸連合(富山県支部、石川県支部、福井県支部)他



卒業生講演

在校生にとっても参考になる貴重なお話!ぜひ在校生にも知ってもらいたいので特別に紹介します!

各学科1名卒業生をお呼びして、講演を行いました。

講演後にはパネルディスカッションを実施し、学生時代に所属していた研究室を選んだ理由や学生時代に取り組んでいた方が良かったことなど、たくさんの貴重なご経験を元にお話していただきました。また、聴講者の方からもご質問を受け、有意義な時間を過ごすことができました。

卒業生のインタビューは次ページをご覧ください!



パネルディスカッションの様子



獣医学科卒 山口氏



獣医保健看護学科卒 矢作氏



動物科学科卒 蓮見氏



食品科学科卒 高橋氏

卒業生の紹介は次ページになります⇒

11月オープンキャンパスで卒業生講演をしてくださった各学科卒業生4人からお話を伺いました。

THE ROAD TO SPECIALIST
スペシャリストへの道
卒業生編



2013年 3月 日本獣医生命科学大学 獣医学科卒業
2013年 4月 神奈川県 動物病院勤務(個人開業)
2013年 9月 東京都 動物病院勤務(個人開業)
2018年 7月 イオンペット株式会社入社 ペテモ動物病院亀戸勤務
2018年10月 ペテモ動物病院つくば院長就任
2021年 4月 東京女子医科大学 大学院進学
2021年10月 ペテモ動物病院亀戸夜間救急責任者就任

ペテモ動物病院亀戸
獣医師 山口 登志宏
Toshihiro Yamaguchi

—現在のお仕事について教えてください。

現在はイオンペット株式会社に入社し、ペテモ動物病院亀戸で小動物臨床に従事しています。ペテモ動物病院亀戸では、犬・猫・エキゾチックアニマル(ウサギ、フェレット、ハムスター、ハリネズミ、チンチラ、フクロモモンガ、デグーなど)の診療を担当しています。2024年より、江東区のひがし東京夜間救急動物医療センターと合併し診療を行い、24時間365日・年中無休で一般外来から救急症例・紹介症例などの対応を行っています。

また、東京女子医科大学の大学院に進学しており、膵臓がんを対象とした難治性がんに対する次世代療法の研究とがん免疫療法について研究を行っています。

—現在の職業を目指したきっかけはありますか？

子どもの頃から動物が好きで自然と獣医師を目指していたことは、皆様と同じだと思います。子どもの頃アレルギーが酷く、色んな動物に触れ合うことができなかったのですが、うさぎやハムスターは問題なく、子どもの頃からずっと飼育していました。エキゾチックアニマルは病気になった際に診療してもらえる病院が少なく、苦労した経験も多く、そのような思いをする人に少しでも力になればという思いもあり、獣医師を目指しました。

—現在の職業に就いて大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

獣医師として小動物臨床しか経験がないですが、非常に多岐にわたる職域であり、専門性も求められます。小動物臨床も日々知識のアップデートが行われ、獣医療も高度な知識や技術が求められています。今勤めている亀戸では、他院からの紹介症例や救急病院の側面が強く、過去経験が無いくらいクリティカルな症例を担当しています。入院している動物が亡くなってしまふことも多く、精神的にも体力的にも大変に感じることもあります。

一方で無事退院でき、ここに来てよかったと言ってもらえることも多く、地域医療や関東圏の救急病院としてやりがいを感じることも多いです。また、働くスタッフの姿を見て獣医師や愛玩動物看護師を目指してくれたオーナーもいて、私達の働く姿を見てこの業界を目指したい!と思ってもらえることも非常に励みになります。実際に就職して一緒に働いたスタッフもいますし、大学入学後に研修などに来ってくれる学生もいます。



—どんな学生時代を過ごしましたか？

研究室は、獣医外科学研究室・再生医療班に所属していて、再生医療に強い興味があったため、原田准教授の元で骨の再生に関する研究を行いました。橈尺骨の骨欠損モデルを作成し、再生部位の力学的評価を行う研究を行いました。

また、部活動では、空手道部に所属していました。時間が取れる時は部活動にも積極的に参加し、大会や合宿なども参加していました。大学4年次には主将も務め、研究室・病院の手伝い・部活と忙しくもやりがいのある経験ができました。

—学生時代、こんなことに苦労し、このように乗り切ったなどのエピソードがあったら教えてください！

3年次に研究室に所属し、病院の現場に出ることを非常に楽しみにしていました。実際の現場を多く経験することができ、非常に有意義な4年間だったと思います。その分、覚えておかなければならないことや業務も多く、院内検査の準備や動物の保定、手術の準備、器械出し、オペ室の掃除など、全く経験が無いことばかりで当時は苦労したことを覚えています。同期や先輩たちに助けていただき、少しずつ様々なことを学んでいくことができました。

分からなかったことの多くが、迷っていても解決には進まず、何か行動をとってれば少しずつ進んでいき解決に向かうことを多く経験し、今でもやり続けなければならぬかなるの気持ちで働いています。

新江ノ島水族館

愛玩動物看護師 学芸員 矢作 茉奈 Mana Yahagi

2016年3月 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科卒業
2016年4月 アニコムホールディングス株式会社(主に動物病院にて小動物臨床業務)
2019年5月 新江ノ島水族館(コツメカワウソ・フンボルトペンギンの飼育担当 約3年、医療チーム 3年目)

—現在のお仕事について教えてください。

医療チームに所属し、水族館の生き物たちの病気の治療・予防の補助や早期発見を目的とした定期検査、個体のカルテ管理、薬品管理、データ収集・整理などをメインに行っています。検査では、動物たちの採血や糞検査、尿検査、内視鏡検査やX線検査など、様々な動物種、また様々な検査を行っています。動物たちは体調が悪いことを隠そうとするので、予防医療に力を入れています。

他には、飼育スタッフの手伝いで調餌(餌切り)やプールの潜水掃除などの、飼育業務の一部も担っています。また、他館への視察や獣医師・愛玩動物看護師が在中していない近隣の水族館へ出張診療補助も実施することがあります。



▲バンドウイルカの採血



▲アオウミガメの超音波検査

—現在の職業を目指したきっかけはありますか？

大学4年生の夏に、新江ノ島水族館で2週間の学芸員実習に取り組み、「いつかここで生き物たちの健康を守る仕事がしたい」と思うようになりました。学芸員実習では、イルカトレーナーの仕事の見学や給餌、水質検査などを実施しました。また、新江ノ島水族館における鯨類飼育の歴史やトレーニングと健康管理、水槽やプールの濾過の仕組みなども学びました。

—現在の職業に就いて大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

水族館は小動物臨床とは全く違う現場なので、一からの勉強です。勉強したことが生きて、体調の悪い個体が元気になったときや、トレーナーたちと一丸となって挑戦した治療が成功したときには、本当にやりがいを感じます。

—どんな学生時代を過ごしましたか？

大学生の時に行ったダイビング実習で、すっかり海に魅了され、海の生き物に興味をもち、水族医学研究室に所属していました。水族医学研究室では、鯨類の解剖・病理を研究しました。

また、学生時代に馬にも関わりたいと思い、サークルでは、木曾馬を飼育する観光施設に泊まり込み、馬のお世話や乗馬、接客などを行っていました。

—今、学生時代を振り返ってみて感じたことを教えてください。

在学中は、講義や実習を通して、獣医保健看護に関する様々な分野を学びます。日獣ならではの部活やサークル、研究室もあります。好きなこと、興味のあること、やりたいことがたくさんあり、時間とお金が足りないと感じましたが、仲間や先輩・後輩、先生方、家族など周りの人たちに恵まれ、多くのことにチャレンジし、貴重な経験を重ねることができました。

また、大学生活で様々な動物と触れ合うことができ、今大学生活を振り返っても、やり残したことはないと言える学生生活を送ることができました。

応用生命科学部 動物科学科

THE ROAD TO SPECIALIST スペシャリストへの道 卒業生編

応用生命科学部 食品科学科

—現在のお仕事について教えてください。

今年度から、恩賜上野動物園の飼料室担当になりました。飼料室は、上野動物園で飼育している全ての動物(300種3000匹)の餌に関わり、餌の調達や在庫管理、契約業務などを行っています。そのため、各動物の餌を全て把握できるように努め、その餌が動物にどのような効果があるのかを日々勉強しています。そして、飼育係とよくコミュニケーションをとり、動物たちにとってよりよい餌を目指しています。

—現在の職業を目指したきっかけはありますか？

私は、幼いころに動物園で動物と触れ合った経験から動物が好きになりました。その時、動物のことをたくさん何でも教えてくれる飼育係がかっこよく見え、小学生の頃から動物園で働く仕事に憧れていました。獣医ではなく飼育係を目指したのは、担当の動物について誰よりも詳しくなりたかったからです。そのため、動物を一番近くで見られて、日々お世話する飼育係を目指しました。

—現在の職業に就いて大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

一番大変だったのは、パンダ飼育担当だった際に、パンダの出産-育児期の対応をしたことです。出産-育児に向けた準備は沢山していましたが、毎日初めての経験と学びの連続でついて行くのに必死でした。誰も経験したことのない状況でしたが、先輩方の考え方や判断力、観察力などに圧倒され、自分にも飼育係が務まるのか不安で何度も心が折れかけました。ですが、私が疑問に思っていることを毎回詳しく説明してくださったり、私の意見も聞いてくださったりと先輩方の沢山のサポートとアドバイスのおかげで乗り越えることができました。また、私が正規職員の試験を受ける時も、沢山サポートしてくださりました。そのような尊敬できる先輩方とずっと長く一緒に働きたい、この先輩方から飼育を学びたい、先輩方のような飼育係になりたいと強く思い頑張りました。

—学生時代に所属していた研究室やサークルについて教えてください。

大学入学時から繁殖学に興味があり、とくに生殖補助技術について学びたかったため動物生殖学教室に入りました。

研究室では、卒論と300匹以上のハタネズミの系統維持に力を入れて取り組んでいました。卒論は、「ホンドハタネズミの非外科的胚採取」というテーマで実験を行いました。この方法では、外科的な処理をせずに採卵を行うため、動物へのストレスが少なく反復的に採卵することができ、希少な小型齧歯類の胚採取に活用できます。

生き物を相手に実験を行うため、卵子成長に合わせて朝早く実験を始めたり、投薬のために夜遅くまで残ったり、実験個体の離乳などに合わせたりとスケジュールを組むのが大変でしたが、学びたいことを学べてとても楽しかったです！また、ハタネズミの系統維持では、毎週動物舎に一人で数時間も入り、どのペアにするか考えたり、妊娠しているメスの体重を量ったり、母子分離したり、仔の雌雄判別したりと大変でしたが、ペアリングからの一連の作業を全て行うことはとても勉強になりました。その他には、上野動物園でお手伝いをするレクリエーション同好会(現在は上野動物園での活動は行っていません)や

動物園や牧場での実習が毎回楽しく、とても多くのことを学びました。

—学生時代、こんなことに苦勞し、このように乗り切ったなどのエピソードがあったら教えてください！

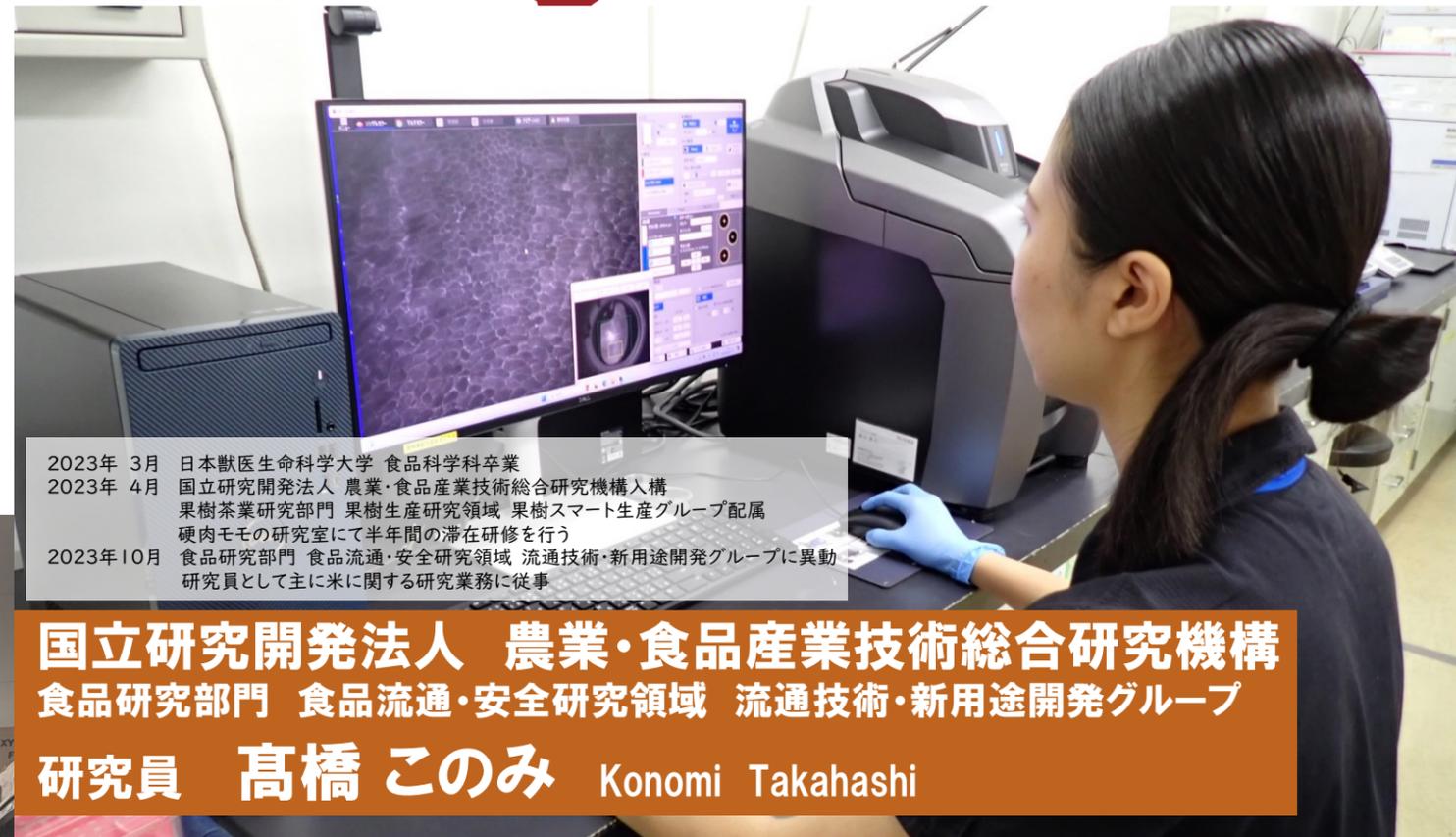
英語が苦手なため、授業や研究室で英語論文を読む際にとても苦勞しました。(いつも友達に助けてもらっていました…)

働いてからは、海外の人と関わることも多く、海外の動物園の方が様々な情報を持っているので毎回とても苦勞しています。英語は学生のうちから取り組むことをオススメします！



2020年3月 日本獣医生命科学大学 動物科学科卒業
2020年4月 恩賜上野動物園 教育普及課 アルバイトとして入社
2020年8月 恩賜上野動物園 飼育展示課 アルバイト
2021年4月 恩賜上野動物園 飼育展示課 嘱託員
2023年4月 恩賜上野動物園 飼育展示課 正規職員

公益財団法人 東京動物園協会
恩賜上野動物園
動物園職員 蓮見 香帆 Kaho Hasumi



2023年 3月 日本獣医生命科学大学 食品科学科卒業
2023年 4月 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 果樹生産研究領域 果樹スマート生産グループ配属 硬肉モモの研究室にて半年間の滞在研修を行う
2023年10月 食品研究部門 食品流通・安全研究領域 流通技術・新用途開発グループに異動 研究員として主に米に関する研究業務に従事

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
食品研究部門 食品流通・安全研究領域 流通技術・新用途開発グループ
研究員 高橋 このみ Konomi Takahashi

—現在のお仕事について教えてください。

農業・食品産業分野の国立研究機関である農研機構の研究員として、米の需要拡大や輸出促進に貢献するため、米の新規用途や品質評価法の開発に取り組んでいます。現在にかけて、米の解析に必須となる研究手法を学び、基礎的な知識から応用的な考え方で幅広く身に付けるべく、日々勉強に励んでいます。特に最近では、自身で新たに確立した手法を用いて、玄米の胚乳細胞の形態観察を主に行っています。また、研究者としての素養を培うために、学会や研究会、有志の勉強会やセミナーに積極的に参加して、先輩研究員たちと活発な交流を図り、常に成長に努めています。

—現在の職業を目指したきっかけはありますか？

私は、高校生の頃から constants に研究活動を行っており、当時から「我々の食生活をより豊かなものにしたい」という思いがありました。弊機構は、食品分野における我が国最大の研究機関であるため、非常に魅力的に感じました。また、大学1年生の時に担任の先生に「1年生から研究をできないか」との相談をしたところ

快諾してくださり、1年生から研究室にて研究してまいりました。私のこの相談がきっかけとなり、現在食品科学科が実施している大学1年後期から研究室に所属することができる「早期ゼミ制度」が設立されたようです。

—現在の職業に就いて大変だったことや今後も頑張ろうと思ったエピソードを教えてください。

大学生の頃までは全く別分野の「米」を扱う研究室に配属になり、育種や栽培の知識はおろか、高校生の時は生物選択でもなかったため、最初は上司やベテランの研究員たちが何を言っているのかを理解するのに苦勞しました。わからない単語をまとめてリスト化したり、上司が何度も丁寧に説明してくださったおかげで、最近はやっとディスカッションにも参加できるようになりました。



—学生時代に所属していた研究室・サークルについて教えてください。

食品に関わる微生物やその活動について興味を持っていたので、食品工学教室の小林史幸先生の下で、二酸化炭素マイクロバブルによる食品の殺菌機構の解明に取り組んでいました。様々な実験を行い得られた結果について考察し、先生の手厚いご指導のおかげで研究成果を国際誌に発表することができました。

サークルでは、JAZZ&ROCK研究会という軽音サークルに4年間所属しており、研究室とサークルの両立で非常に充実した学生生活でした。

—学生時代、こんなことに苦勞し、このように乗り切ったなどのエピソードがあったら教えてください！

大学3年生まで所属サークルの幹部を務めており、コロナ禍でどのように活動していくかに頭を悩ませました。サークル存続の危機から脱するために、何度も学生支援課に足を運んで、感染症対策を行いつつも活動ができるよう奮闘しました。最後には、ありがたいことに頼れる後輩も入ってくれて、大変な思いをしましたが、多くの学びを得ることができました。

博物館 活動日誌

2024年 6月
▼
2024年 11月

日本獣医生命科学大学付属博物館は、一号棟を拠点に様々な活動に取り組んでいます。2024年6月から2024年11月までの活動の一部を紹介します。

【活動日誌192】2024年6月1日公開
今年度の実務実習が始まりました。

当館は本学で学芸員課程を履修している学生の実習の場としての役割を担っています。5月11日からは4年生を対象とした実務実習が始まりました。この日は博物館資料保存論を担当していた非専任講師の奥田環先生に「資料の情報整理と展示の立案」をテーマにした実習を行っていただきました。この実習では学生が取り扱う資料として当館が所蔵する書籍が活用されています。



書籍の情報をリストに入力する様子

【活動日誌202】2024年7月18日公開
資料の定期点検を実施しています

活動拠点である一号棟は、明治時代に建てられた旧東京市麻布区役所庁舎を移築した建物です。国の登録有形文化財(建造物)として認められた貴重な建物ですが、麻布区役所時代から数えると築115年が経過した木造2階建ての建物には隙間が多く、資料害虫の侵入を完全に防ぐことは困難です。そこで、当館では定期的に展示資料の点検を実施し、害虫による被害の蔓延を予防しています。

TOPICS 1: ミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しました

当館が所蔵する動物標本の中には、学内外からご寄贈いただいた絶滅危惧種の貴重な標本が含まれています。8月17日から10月6日にかけて、ミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催し、当館と本学獣医学部獣医保健看護学科の病態病理学研究分野が所蔵する絶滅危惧種の標本を、合計9点展示しました。



ご寄贈いただいたセンザンコウの剥製



剥製のホコリを払うスタッフ

【活動日誌204】2024年7月25日公開
団体見学を受け入れました

当館では団体の皆様のご見学を受け入れています。7月13日に放課後等デイサービスウイング調布から15名の方が来館されました。団体見学の場合、ご要望があった場合は博物館スタッフが解説を行うことが可能ですが、今回は解説不要と事前にご連絡をいただいたため、博物館の入口で簡単な紹介をした後は自由に館内をご見学いただきました。身近な野生動物の剥製を展示している自然系展示室が特に人気だったようで、熱心に剥製を観察されていました。



見学のお見送りの様子

TOPICS 2: 学内の研究室とコラボした特別展を開催中!

獣医学部 獣医保健看護学科 獣医保健看護学応用部門 病態病理学研究分野と連携し、奄美大島の動物たちをテーマにした特別展「NVLU 奄美プロジェクト-研究・保全・そして未来-」を開催しています。学内の研究室との連携展示は当館初の試みです。本展示では、アマミノクロウサギやリリカケスなど、なかなか目にすることができない奄美大島の希少な固有種の標本を展示しています。

【会 期】令和6年11月1日(金)～令和7年5月31日(土)(予定)
【会 場】日本獣医生命科学大学付属博物館 2階 自然系展示室
【開館日時】博物館の開館日に準ずる

詳細はこちら



【活動日誌208】2023年8月24日公開
オープンキャンパスにあわせて博物館を開館しました

8月17・18日に開催された本学のオープンキャンパスにあわせて博物館の特別開館を実施しました。2日間で合計1,000名の方が当館を見学されました。17日からはミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開始し、多くの方に好評をいただくことができました。



【活動日誌214】2024年10月12日公開
小学生による団体見学を受け入れました

境南小学校に通う2年生の皆さんが博物館の見学に来ていただきました。担任の先生が当館のことを紹介したところ、生徒の皆さんが「行きたい!」と見学を熱望してくださいました。生徒の皆さんは展示している剥製に興味津々の様子で、「動物たちはどうして死んでしまったの?」「どうやってお肉を取り出すの?」「取ったお肉はどうするの?」など、たくさんの質問をしてくれました。



タヌキについて解説をするスタッフ

【活動日誌215】2024年10月17日公開
特別展の準備を進めています

特別展「NVLU 奄美プロジェクト-研究・保全・そして未来-」開催のため、病態病理学研究分野の皆さんとともに展示の準備を行いました。特別展では研究室所蔵の標本を多数展示します。当館で使用している展示台やケースの大きさはいくつか種類があるため、どの台にどの標本を置くのか、どのケースを使ったら収まりが良いのか、学生さんたちの意見を聞きながら調整を行いました。



【活動日誌219】2024年11月7日公開
大学祭とオープンキャンパスにあわせて博物館を開館しました

11月1日から3日にかけて、第7回獣医祭とオープンキャンパスが開催され、当館も特別開館を実施しました。特別開館中は病態病理学研究分野と獣医寄生虫学研究室から先生と院生の方にお越しいただき、特別展の展示解説をしていただきました。3日間で合計880名の方にご来館いただくことが出来ました。



大学院生による解説の様子

日本獣医生命科学大学付属博物館 基本情報

【開館日時】 火曜日～土曜日 10:30～17:00
(最終入館および 物販は16:30まで)
【休 館 日】 日曜日・月曜日・祝日、年末年始、
大学の定める休日(その他臨時休館あり)
【入 館 料】 無料
【入館方法】 事前予約制(本学関係者は予約不要)

※ 開館日程は事前の告知なく変更になる場合があります。
※ 学内の方(在学生・教職員)は予約なしで見学が可能ですので、開館日に直接展示室までお越しください。



詳細情報



来館案内

「活動日誌」について

博物館公式Facebookにて、日々の活動をまとめた「活動日誌」を公開しています。2020年10月の公開開始から、これまでに200件を超える日誌を公開しました。このページに掲載した「活動日誌」は、Facebookにて公開した活動日誌に加筆修正を加えた特別版です!

Facebookはこちら





第7回医獣祭を開催しました！



7回目を迎えた今回の医獣祭は、「桜梅桃李」をテーマに掲げ、文化系や体育系の部活動・サークル、研究室をはじめとした多くの学生団体が参加し、模擬店や展示、ステージ企画など様々なイベントが催されました。

併せて2025年度入試向けの最後のオープンキャンパスや、付属動物医療センターによる犬・猫相談コーナーも開催され、在学生の方だけでなく、受験生や卒業生、周辺地域の方など多くの来場者の方で賑わいました。

武蔵野市及び三鷹市と包括連携協定を締結しました！



▲武蔵野市との調停式

本学は、10月30日に東京都武蔵野市と、11月7日に東京都三鷹市と包括連携協定を締結しました。

同協定は、本学及び本学を運営する学校法人日本医科大学と、武蔵野市、三鷹市が連携協力することにより、相互の資源及び大学の研究成果などの専門性を活用し、活力ある地域社会の創造、協働による地域の課題解決、人材育成及び相互の発展に資することを目的とするものです。連携協力を円滑かつ効果的に推進するため、それぞれに連絡調整を行う担当部署を定めるとともに、情報共有を図ることとしています。この目的を達成するために、今後は動物救護活動や動物愛護に関する講座の開催といった具体的な事業について個別に協議して取り組んでいきます。



▲三鷹市との調停式

本学馬術部による体験乗馬会を開催しました！



本学馬術部の主催により、大学教職員向けに体験乗馬会を開催しました。当日は天候がすぐれませんでした。乗馬や餌やりなど、普段できない体験をすることができました。馬術部は本学第二校舎で活動しており、本年も全日本学生馬術大会に出場し、好成績を収めています。

第1回獣医学生アイデアコンテストにおいて最優秀賞を受賞しました！



獣医学部獣医学科3年次の佐藤端紀さん（獣医事法学研究室）が第1回獣医学生アイデアコンテストにて、最優秀賞を受賞しました。

獣医学生アイデアコンテストは、愛犬や愛猫との幸せな生活を実現し、豊かな社会につなげていくことを目的として、ペットフードメーカーの「ロイヤルカナン」が主催するコンテストです。

本コンテストにて、佐藤端紀さんのアイデア「地方獣医療格差をなくしたい！～獣医療に夜間救急輪番制を～」が高い評価を受け、皆さんの応募の中から最優秀賞を受賞されました。

地方の動物病院では、休日や夜間の救急治療を行う制度が十分に整っていないことから、地域の動物病院が協力して「夜間救急輪番制」を導入することで、人と同じように動物も十分な医療を受けることができる環境作りについて提案しています。

本アイデアは獣医療の発展に貢献するものであり、佐藤端紀さんの今後のさらなる発展と益々の活躍が期待されます。

日本獣医生命科学大学みらい募金

「質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」のため、皆さまのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

1. 福利厚生施設の充実と学生支援の強化

コロナ禍によって停滞した学生の自治活動やクラブ活動を活性化させるために、学生支援を強化する。学生会館やクラブ棟などの福利厚生施設の充実をはかる。

2. 地域及び動物福祉に貢献する第二校地の有効利用

武蔵野駅近くの立地条件に恵まれた第二校地を有効に利用し、地域及びワンウェルフェアに貢献する教育と研究の拠点を創る。

3. 研究・教育拠点として富士アニマルファームの整備

山梨県の富士ヶ嶺に位置する付属牧場（富士アニマルファーム）を地域と畜産に貢献する研究、教育拠点として整備する。

4. 多様な学生を受け入れるため大学院改革と研究支援

社会人を含む多様な学生を受け入れるための大学院改革を進める。生命科学総合研究センターにおいてワンヘルスに貢献する重点研究を設定し支援する。

5. 診療・教育施設である付属動物医療センターの設備整備

医療設備を整備し、診療体制及び臨床研究の充実をはかる。

目的

日本獣医生命科学大学における「質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」のための環境整備に関する資金調達寄付の種類

- ① 福利厚生施設の充実と学生支援強化に対する寄付
- ② 富士アニマルファームの整備に対する寄付
- ③ 付属動物医療センター設備整備に対する寄付

募集期間

2024年4月1日～2025年3月31日（毎年度更新）

募集対象

法人、団体、個人

募集金額

- 【法人、団体】 一口5万円
- 【個人】 一口1万円

お振込方法

本学ホームページをご参照ください

お問い合わせ 〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

日本獣医生命科学大学 庶務課

Tel : 0422-31-4151 (代表)

E-mail : shomu@nvlu.ac.jp



2024年 新刊案内

動物福祉 アニマルウェルフェア
—世界の歩みと日本の取組み—

著者：植木 美希, 田中 亜紀, 町屋 奈
出版：工作舎
定価：2,200円（税込）
発売日：2024年7月26日

育てる、食す、護る、愛する。動物が健康で幸せに生きられることが、動物福祉（アニマルウェルフェア）の大前提。人は感情ではなく科学的根拠に基づいて動物を飼養し、動物福祉に配慮して育てられるペットや畜産動物の人間による利用は、否定されないことが望まれる。…しかし、動物福祉との厳密な区分はあり得ず、いのあるもの同士の永遠の課題として残り続けるだろう。

「ペットロス」は乗り越えられますか？
—心をささえる10のこと—

著者：濱野 佐代子
出版：株式会社KADOKAWA
定価：1,760円（税込）
発売日：2024年6月20日

無償の愛を与えてくれる唯一無二の存在。ペットを亡くしたとき、人は大きなショックと痛みを受けます。「こんなに苦しいのは私だけ？」「いえ、あなただけではなく、この瞬間にも世界中で何千万の飼い主が、同時に「ペットロス」に落ちているのです。いつまでも癒えられない、つらく苦しい「ペットロス」。いつか、乗り越えられる日が来るのでしょうか？

nichistagram

2024年の思い出

Related Hashtags: #投稿してくださった皆さん #ありがとうございます! #またよろしくお願いします!

 Lucky7_Thanks_S2



♡ 💬 📌 #14年11ヶ月 #ありがとうございます
#ずっと大好き

 moomoo_sangyo



♡ 💬 📌 #富士アニマルファーム
#産業動物臨床学研究室
#6年生引退
先生いつもお菓子ありがとうございます! 😊

 Jimu_nvlu



♡ 💬 📌 #11月オープンキャンパス
#2024年最後の
#オープンキャンパス
たくさんのご来場ありがとうございました!

第80号表紙絵
内田 かの子 さん(獣医学科 2年次)



日獣生が星空に自分の夢を思い描いているところを描きました。
今回、この表紙絵を見て大学報を手にとってもらい、日獣に多くの
魅力が詰まっていることを知っていただきたいと思います。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報-第80号(2024年12月号) 2024年12月27日発行
協力(以下敬称略)/教職員: 鈴木浩悦学長 藤田道郎 益子伊織 味戸忠壽 三浦亮太郎 落合和彦
貝瀬太郎 茂木千波 米澤宏華 鳥飼恵子 諸江美咲来
その他協力いただいた皆様ありがとうございました!
表紙/内田 かの子
編集・発行/(大学広報誌検討チーム)石井奈穂美 藤野萬純 加藤千佳 加賀美早紀 駆碧衣
(事務局長)神代浩
(入試課)大沼友美 石田麻衣子 堀碧衣 成相亮平
印刷/デジタルフレンド株式会社

